

西陵中学校だより

平成 30 年 9 月 7 日(金)

特別号

学校 HP アドレス <http://www.yokkaichi.ed.jp/seiryu>

H30年度 西陵中学校 3年生実施による全国学力学習状況調査結果から

今年度の全国学力・学習状況調査は、国語A B、数学A B、理科の教科で4月に3年生で実施されました。この調査において測定できるのは学力の一部であるものの、その結果から各教科並びに生活習慣における本校3年生の優れている分野(強み)や不足している分野(弱み)について分析をしました。これらの分析をもとに、優れていると考えられる分野での実践継続や、不足していると考えられる部分の力を伸長する授業実践の工夫や生活改善につなげ、さらに充実した学校生活が送れるよう取り組んでまいりたいと思います。

＜本年度の調査項目について＞

主として「知識」に関する問題(A)

- ・身に付けておかなければ後の学年等の学習内容に影響を及ぼす内容
- ・実生活において不可欠であり常に活用できるようになっていることが望ましい知識・技能など

主として「活用」に関する問題(B)

- ・知識・技能等を実生活の様々な場面に活用する力
- ・様々な課題解決のための構想を立て実践し評価・改善する力など

生活習慣や学習環境等に関する質問紙調査

- ・生徒に対する調査：学習意欲、学習方法、学習環境、生活の諸側面等に関する調査

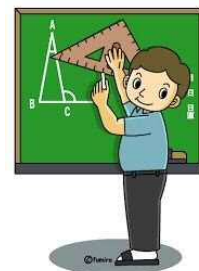
＜国語＞

正答率を見てみるとA問題で全国平均及び県平均と概ね並んでおり、「知識」に関する問題では満足いくものでありました。基礎的な知識や技能が身に付いている状況であるといえます。文脈の中における語句の意味を理解することや正しく読み書きすること。目的に応じて資料を効果的に活用したり、必要な情報を読み取ることに強みがあります。B問題では、全国平均及び県平均を少し下回る結果となりましたが、その中でも、質問の意図を捉えて答えることや相手に的確に伝わるようにあらすじを捉えて書くことはできており、今後は苦手意識の高い読む力(読解力)について授業の中で読解力の源となる「語彙力」「要約力」「思考力」の3つの力を身に付けさせるべく指導していきたいと考えています。



＜数学＞

正答率では国語と同様でA問題で全国平均及び県平均と概ね並び、B問題では全国平均及び県平均を下回る結果となりました。特にA問題の「関数」に関しては、満足できるもので、具体的な事象における2つの数量について一方の値を決めれば他方の値がただ1つ決まる関係を確認する活動や、問題解決のために表した表・式・グラフをどのように用いればよいか説明し合う場面の設定など、検討する活動の充実の結果であると考えています。一方B問題では図形における証明問題についての苦手意識が高いことがわかりました。証明は、筋道を立てた考え方(＝論理的思考)や、発言や文章で分かりやすく物事を説明することが求められます。授業においては、理論的な思考力を身に付けさせる指導を行い、自分の考えや気づきなどを発表させ、苦手意識の克服に努めたいと考えています。



＜理科＞

3年ぶりに実施された理科では実験や観察の場면을多く設け、主として「知識」に関するA問題と主として「活用」に関するB問題を一体的に問い、次期学習指導要領で重視する「問題解決の姿勢」が育っているかをみる問題も出されました。本校の結果は、全国平均及び県平均との比較では、下回る結果となり、特に第1分野の科学的領域について苦手意識が高いことがわかりました。今後は、日常生活や社会との関連を図りながら物質とその変化への関心を高め、目的意識をもって観察、実験などを行い、化学的に探究する能力と態度を育てるとともに、化学の基本的な概念や原理・法則を理解させ、科学的な見方や考え方を養いたいと考えています。

＜生徒質問紙＞

生徒質問紙の調査とは、該当学年の生徒を対象にしたアンケート調査で、前述したように学習状況や生活状況について回答しています。これらの回答から見えた結果を基に、本校の生徒たちの強みや弱み（課題）を紹介します。

複数回答可能な設問で「放課後に何をして過ごすことが多いですか」「週末に何をして過ごすことが多いですか」という設問では、平日で9割以上、週末では8割程度の生徒が学校の部活動に参加していると答えており、当然のことながら一日の大半を学校で過ごしています。一方で家庭での過ごし方では、家でテレビやビデオ・DVDを見たり、ゲームをしたり、インターネットをしたりしていると平日週末ともに8割の生徒が回答し、家で読書や勉強をしている・学習塾や家以外の場所で勉強をしていると回答した生徒は4割となっています。インターネットや携帯電話の普及でそれに使う時間が増えれば増えるほど、その分ほかのことに使える時間が減り、家庭学習の時間が確保できない状態であるように思います。

学習面では、「数学の勉強は好きですか」「理科の勉強は好きですか」という設問では、全国平均及び三重県平均を数学では上回り、理科では下回る回答でした。「～の勉強は好きですか」という設問は単にその教科のみの勉強についての設問であるという考えではなく、学習離れについての設問ととらえることとし、生徒たちのこの思いを学力の向上につなげていくためにどの教科においても、生徒の目的意識を高める授業づくりを目指し、家庭学習での復習・宿題や学校での定着確認テスト・計算練習などを充実させることにより、「わからなかったことがわかるようになった」「できなかったことができるようになった」という充実感が味わえるよう考えていかねばなりません。そういった意味で、継続的・計画的な授業づくりに努め、毎時間の授業の内容、ねらいを明確にし、生徒の目的意識を高める授業づくりを目指していきたいと考えます。また、少人数指導の利点を生かし、生徒の理解度や習得の様子を的確に、詳細にとらえながら、質問しやすい雰囲気や環境を整えるための人間関係作りにも配慮し、生徒の発言を有効に活用する授業の展開を心がけていきます。

自己肯定感を問う「自分には良いところがありますか」という設問では肯定的な回答をした生徒が全国及び県の回答を上回り、自分有用感を問う「人の役に立つ人間になりたいと思いますか」の設問においても同様な結果であり、「西陵中のちから」として学校と家庭、そして地域を結ぶ組織力（見守り）があるからこそ、生徒たちの自己肯定感や自己有用感の向上につながっているものと捉えています。また、「いじめは、どんな理由があってもいけないことだと思いますか」の設問に対しては多くの生徒が肯定的な回答をしています。このような思いやりのある生徒が育っていることを何よりもうれしく思います。

全体を通して基本的な生活習慣が身についている生徒が多く、家庭や学校での生活が充実しているように感じます。生活習慣と学習習慣とは密接に関係しており、学校での生活指導に対する家庭、地域の理解や協力、支援が大きく影響していると思われます。今後とも家庭、地域と学校の連携をより一層すすめていきたいと考えています。

